

中級文章表現練習の試み —上級に向けて—

金子 比呂子
(2004. 10. 29 受)

【キーワード】 意見文 構成をなぞる 枠組みを与える 内容作り J A P

0. はじめに

東京外国語大学留学生日本語教育センター（以下センターと略す）における中級作文教育の目標は、上級で小論文を書かせる前段階として、意見文が書けるようにすることである。

中級では、各クラスで事前指導を行った上で、「夏休みの思い出」、「自国紹介」、「〇〇と私たちの生活」、「日本で見たこと」、「テレビの功罪」、「『厳しい大学入学試験は絶対に必要である』に反対する」などの課題作文を書かせている。提出させた作文は添削して学生に返すのだが、その際個々の学生に表現の意図等を確かめながら、誤りの訂正や文構成の指導を行っている。

課題作文を書かせるという方法は初級段階でも行っているが、初級の課題作文は、主として自分の知識や経験を材料に、日本語運用練習の一環として書かせるというものであった。これに対して、中級の課題作文は前半期の「自国紹介」、「〇〇と私たちの生活」といった説明文から、後半期は反対意見を述べるなど、意見文を書くものとなっている。⁽¹⁾

したがって、中級では、課題作文を書かせる事前指導のさらに前から、ある程度練習をさせておく必要がある。ただ、限られた授業時間内で、新たな教材を持ち込んだのでは学習者の負担が重くなる。そこで、できるだけ、終了するのに300時間もかける『中級日本語』の本文を利用した表現練習を試みた。練習の当初の目的は、意見文を書けるようにするということであったが、最終的には、文章表現だけではなく、「意見を述べる」という口頭表現の練習にもなったように思われる。本稿では、そのような表現練習のいくつかを報告したい。

1. 枠組みを与える練習例

1.1 『中級日本語』第2課「スーパーマーケット」対応

内容：いい点とわるい点を挙げて説明する

第11課対応の課題作文『〇〇と私たちの生活』で〇〇のいい点とわるい点を述べるという形で書かせることもできるのだが、これはその前哨的な練習である。

〈説明文 いい点とわるい点（不便な点）をあげて説明する〉

『中級日本語』第2課「スーパーマーケット」の文を使って、デパート、普通の店、コンビニの中から一つ選んで、そのいい点と不便な点を説明してください。

| 店の種類 | スーパーマーケット | デパート | (小売り)店 | コンビニ |
|------|------------------------------------|----------------------------|----------------------------|----------------------------------|
| 買う物 | ふだん食べる物 日用品 | プレゼント 洋服 | 魚 肉 野菜 果物 | 日用品 塩 さとう |
| いい点 | ・安くしてある ・全部の物がそろそろ ・特別セールがある | ・いいもの ・高級感がある ・見て楽しい | ・新鮮 ・したしくなると 安くしてくれる | ・時間制限がない ・寂しくない |
| 不便な点 | ・必要なだけの量が 買えない ・レジが込むと時間がかかる | ・値段が高い ・セール以外は 安くない | ・多種の物を そろえられない | ・品物の種類 が少ない ・値段が安く ならない |

序 (introduction)

私は _____ たいいてい _____ で買う。etc.

本論 (body) いい点 / 不便な点

_____ のいい点は、_____。

しかし、_____ には _____ など不便な点もある。

むすび (ending)

このように、_____ はいいい点も不便な点もあるが、もう私たちの生活に欠かせないものとなっている。これからも _____。

1.2 第6課「銀貨や銅貨はなぜ丸いか」対応

内容：論理を展開するための構成、談話のパターンをなぞらせる⁽²⁾

この文の初めから13行目までは、論理の展開のし方を教えるのに有効である。

AはBという状態である。(これは普遍性がある。)では、なぜBか。
 もしBでなければ、Cのような不具合、または矛盾が生じる。
 ところが、BならCのような不都合は生じない。それで、AはBなのである

上記の論理展開を辿らせるため、教科書の本文に沿った以下の枠組みを与える。

| | |
|------------------------------------|------------------------|
| 1 私たちがふだん _____ は、 _____ をしている。 | 観察 |
| 2 _____ のは、日本だけではない。 | 一般化 |
| 3 では、なぜ _____ は、 _____ のだろうか。 | 問題提起 |
| 4 _____ は、 _____ ものである。 | |
| 5 だから、できるだけ _____ がよい。 | 理由 |
| 6 もし、 _____ たら、どうだろう。そのような _____ と | 反実仮定 |
| ① _____ し、② _____。③ _____ | } 不都合な 結果や、 反例など |
| また、④ _____ | |
| その上、⑤ _____ | |
| 7 ところが、 _____ 問題がない。 | |
| それで、 _____ のである。 | 結論 |

構成をなぞることは、外国語で全く何も無いところから、文を創出するのに比べて、負担の少ない方法である。特に、このパターンはのせられるトピックが限られてくるため、逆に書きやすいようである。「字はなぜ左から右に書くことが多いか」「書類はなぜ四角いのか」などは、このパターンに適したトピックだが、「なぜ時計は右回りなのか」「空はなぜ青いか」のようにそのメカニズムについての情報を求めるものや、「日本人はなぜ薬が好きなのか」のように好悪の感情の原因、理由を探ろうとするものはこのパターンには合わない。既に「そう」になっているものに対して、もし「そう」でなかったらと仮定して、矛盾点をあげ、だから「そう」でなければならないという背理法もどきの論理展開をなぞることは、課題作文で何を書いたらいいかと悩むことの多い学習者には好評だった。

部屋の戸はなぜ内側の方に開くのか

ちょっと観察すれば、どんな部屋でも戸が内側の方に開くことに気がつくだろう。戸が部屋の中の方に開くことは日本やシンガポールだけでなく、世界中どこでも同じだと思う。では、戸はなぜ廊下の方に開かないのだろうか。

もし、戸が廊下の方に開いたら、たぶんいろいろな事故が起こるだろう。

寮に住んでいるみんなも知っているように、学生が急いでいる時、廊下を走るとは珍しくない。それで、もしだれかが廊下を走って通っている時に、部屋の中にいるほかのだれかが戸を開けたら、走ってきた人は戸にぶつかってしまう。

もう一つ危険がある。今度は部屋にいる人にとって危ないことである。部屋にいる時、戸や壁によりかかるのが好きな人は多い。部屋に入りたがっている人が外から戸を開いたら、戸によりかかっていた人はどうなるだろうか。もちろん、後ろに倒れてしまう。でも、廊下に立って話している人はこれに比べて少ないので、戸が内側に開く方がもっと安全である。

だから、どこへいっても戸が内側の方に開くようになっているのである。

医者なぜ白い服を着ているのか

私たちがふだん見る医者はいたい白い服を着ている。白い服を着ているのは日本やタイだけではない。では、なぜ医者は白い服を着ているのだろうか。

医者の仕事は患者を治すことである。治すのに、きれいなことは一番重要だ。それに、白い服を着ていれば、きたないものが見ついても見つけやすい。

もし医者の制服の色が黒か赤だったらどうだろう。そのような色の服を着たら、きたないものが見つけない。まず、赤い色だったら、目がチカチカするし、血がついてもわからない。つぎに、黒い色だったら、気持ちも暗くなるし、不吉な感じがする。

それで、医者は白い服を着ているのである。

作文は、文法、表記の誤りを訂正した上で、上記の2編のように完成させ、クラスで配った。他のメンバーからは、前者の作文について、そのアイディアに賞賛の声があがるとともに、車のドアは内側に開いたら困る、アパートや家の扉は外側に開くのではないかなどの意見が出、後者の作文に対しても、最近では水色やピンクの服を着ている医者もいるなどの指摘が出て、話が盛り上がった。とかく孤独な学習になりやすい「作文」を皆で話し合う素材にすることも大切である。

1.3 第18課「騒音問題」対応

内容：投書するという設定で、18課本文①の枠を使い意見を述べる

投書 「 _____ 」

私は _____ からの留学生です。今年の4月に初めて日本へ来て、
それ以後日本の _____ 見る機会がありました。

その都度、 _____ 。

しかし、残念なのは _____ で、だんだんひどくなるばかりです。
それにもかかわらず、 _____ をなくすため、なにも努力がなされていない
のはなぜでしょうか。特に、 _____ はとても我慢できません。

私の国では、既に _____ のため、対策がとられ、効果を上げています。

そこで、私は、日本に対して次のようなことを提案したいと思います。

1 _____

2 _____

_____ が保障されることは、万人にとって
最も重要な権利の一つであり、それは、一部の限られた人々の _____
によって絶対に侵されるべきではないと思います。

投書 「深夜のテレビ番組を考えよう」

私はマレーシアからの留学生です。今年の4月5日に初めて日本へ来て、それ以後
何度でも日本のテレビを見る機会がありました。

その都度、日本のテレビはおもしろい、さすが技術大国だけあると感じます。

しかし、残念なのは、深夜の下品でいやらしい番組で、それは本当にひどいです。
それにもかかわらず、そんな番組をなくすため、なにも努力がなされていないのは
なぜでしょうか。特に、女性を辱めるような番組はとても我慢できません。

私の国で、仮にそんな番組があったら、どんなことになるか想像もつきません。

そこで、私は、日本に対して次のようなことを提案したいと思います。

1 女性を辱めるような番組は禁止する。違反したテレビ局には罰を与える。

2 テレビ放送は時間を限る。特に深夜のテレビ番組は臨時ニュースにとどめる。

品性が尊重されることは、男性にしても、女性にしても、最も重要な権利の一つ
であり、それは、一部の限られた人々の興味や欲望によって絶対に侵されるべきで
はないと信じます。

投書 「ワイドショーを考えよう」

私はブラジル人です。今年の4月に初めて日本へ来て、それ以後日本のテレビをよく見ますが、先日朝8時ごろから始まるワイドショーと言われている番組を見る機会がありました。ワイドショーは、難しいトピックにしても、一般の人々の興味をひくためにいろいろな工夫がなされていて、おもしろいです。しかし、残念なのは、人のプライバシーを尊重せず、何でも報道してしまうことです。

皆は個人として良くないと思っているにもかかわらず、プライバシー侵害を防ぐため、何も努力がなされていないのはなぜでしょうか。特に、殺された人の交友関係まで報道するのはとても我慢できません。

そこで、私は、日本の人たちに対して次のようなことを提案したいと思います。

- 1 過剰なプライバシー侵害の番組はすぐ消して、その番組の視聴率を下げる。
 - 2 あまりにもひどい番組には、その番組制作者かスポンサーに抗議の文を送る。
- プライバシーの保護は、万人にとって最も重要な権利の一つであり、それは、一部の限られた人々の興味によって絶対に侵されるべきではないと思います。

上記2編は学習者に自由に書かせた後添削したものだが、学習者によっては、この枠組みを使って、以下のような題で意見文が書けることを示唆しても良い。

「喫煙に抗議しよう」 「酔っぱらいをなくそう」 「老人を大切にしよう」
「ゴミを減らそう」 「悪いことをしているよその子供に注意しよう」
「携帯電話を使うときはマナーを守ろう」 「インターネットの使い方を考えよう」

1.4 18課投書②の枠組みを使った、他の意見に対する反対意見表明の練習

他者が言った意見(～)を引用し、「確かに～」と一度譲歩した後で

「だが、無用と言えるかどうか」から、自らの反対意見を展開していく。

| |
|--|
| 確かに、_____が、 _____は、ほんとうに無用と言えるかどうか。 _____しなければ、どんな事故さえも起こりかねない。 幼児扱いと怒っても、幼児のように_____。 _____どんな混乱状況が生じるか、想像もつかぬ。 こんな人々がいる限り、現在の_____でも足りないくらいだ。 |
|--|

投書 「まだ必要」

確かに、「自由な」日本の社会で「門限」という考え方は古いかもしれないが、門限は、ほんとうに無用と言えるかどうか。東京は安全な都市だといっても、犯罪がないわけではない。特に、最近では人々が銃で撃たれる事件がよく起こる。

幼児扱いと怒っても、幼児のように、外からの誘惑に負けてしまって、自分の欲望を抑えることができない若者が多い。おもしろそうな悪の世界に入って、犯罪を犯してしまう若者さえいる。やはり、親が門限によって、子供の生活を規制しなければ、深夜自由になった若者たちによってどんな混乱状況が生じるか、想像もつかない。深夜、職場から自分の住んでいる町の駅に着くと、若者たちがローラースケートで遊んでいる。親は、自分の子供たちがやっていることを知っているのだろうか。こんな子供と親がいる限り、今の門限でもゆるいくらいだ。

2. 内容作りの練習例

上記1.4のような枠組みにのるためには、学習者がおかしい、賛成できないと思う事柄（内容）を持っていなければならない。そのため、一部順序が逆になってしまったが、1で述べてきた枠組み練習と並行して、主張すべき事柄、つまり意見、反対意見の内容作りをさせることを意識した練習も必要となる。そこで、『中級日本語』の8課辺りから、学習者を挑発したり、考えさせるような文を投げかけ、意見の形成を促すようにした。そして、その結果ででき上がった意見を、200字程度で書かせてみたり、発表させたりした。挑発文と質問は学習者の負担を考え、新しい素材を持ち込まず『中級日本語』の本文をもとにした。

2.1 第8課「心を伝えるあいさつ」対応 反対意見を促す

人の心は、言葉に出さなければ、他の人に伝わらない。だから、必ず「心」ははっきりと言葉に出して伝えなければいけない。

2.2 第14課「抗議する義務」対応

- ・「抗議する義務」という考えをどう思うか。
- ・「自分で正当と考えた抗議は平気ですればよい」という考えに、賛成か。

2.3 第15課「テレビ映像の伝えるもの」対応 反対意見を促す

テレビやインターネットがあれば、文字による伝達は必要なくなるだろう。

2.4 第16課「練習と人生」対応

「人間は、飛行機によってどんな鳥よりもよく空を飛べるようになった」のか。

2.5 第17課「分ける・押さえる」対応

- ・「手が使われなくなると、脳は退化してしまう」と、本当に思うか。
- ・「自動販売機の前で、ボタンを押して品物が出てくるのを待っている人を見ると、人間の優れた手は、機械文明によって辱められているように思える」という筆者の感想について、どう思うか。

3. 応用練習

3.1 新聞の投書欄に載った意見に対して、反対意見を述べる。

以下は一年生の学部留学生を対象に行った文章表現の授業⁽³⁾の7番目の課題である。この課題作文は、語彙表をつける、予め新出文型を覚えておくといった工夫によって、センターの学部進学学生にも使えると思うので、ここに報告する。

【文章表現】課題7-1 「反対意見を述べる」

最近の朝日新聞に次のような投書が載っていました。90分、800字以内で、この意見に対して、理由を挙げながら反対意見を述べてください。

出生率低下による人口減少は悪い点ばかりだろうか。例えば、日本のような狭い国において、共存できる人口は無限ではない。適正な人口数があるはずだ。したがって、地価の高騰、自然環境破壊は狭い日本で多くの国民が生きていくための当然の結果である。昔の「美しい自然の日本」も、人口が少なく、開発が進んでいなかったからこそのものだ。また、日本の貿易黒字が世界各国からたたかれるのは、我々が物を多く作り、外国に売りすぎたことによる。これほど物を作らねばならないのも、人口が多すぎるからだ。人口が多いと国民総生産が膨らむ。悪循環ではないか。

もし現在、日本の人口が半分だったら、国中にあふれる自動車は半減し、ゴルフ場も増えず、美しい自然環境とほどよい貿易収支の国となっているだろう。出生率の減少を心配する声が高まっているが、そこには昔の「富国強兵」の思想があるように思われてむしろ心配である。

【文章表現】課題7-2 意見を主張するとき注意すべき文末表現

<皆さんの書いた作文に下線部のような誤りがありました。直してください。>

- 1 人口は増えすぎても減っても心配だ。適当な人口になるべきではないだろうか。
- 2 もう一つ重要なのは、「美しい自然の日本」が現代文明のために破壊されたという考え方は利己的な考え方だ。
- 3 経済発展のためには人口より技術の方が大切だと私が信じている。
- 4 出生率が低下し続けると、近い将来、老人人口が多いのがわからないか。
- 5 子供をずっとうまずにいると、生殖能力が低下する恐れがあるではないか。
- 6 出生率が下がったままだと、国民総生産も経済成長率も落ちこぼれるはずだ。
- 7 確かに、現在の状況は、技術の進歩によって、自然環境が破壊しつつある。しかし、人口との関係がないのだろう。

.....

以上全部で20ほどの誤りの訂正をさせつつ、正しい文末表現の定着を図った。

日本語を全く知らない状態から教育できる学部進学学生の場合、課題作文を書かせる際には、既に導入した文末表現が把握できているので、間違いが出ないように、ある程度「予防的な」指導ができる。だが、学部生の場合、文末表現、接続詞をはじめ、文型、語彙を不確かなまま使っていることが多く、このような誤り訂正といった「乱暴な」方法もとらざるを得ない。もちろん文末表現だけを集めた表を作って使い分けを教えたり、接続詞を集めて、順接（付加、解説、論証、例示）、逆接（転換、制限、譲歩、対比）⁽⁴⁾ というように組み直し、表現する際に与えたり、「しかも」、「むしろ」、「だからといって」など、論の流れを作る鍵となる言葉を集めて、使い方を検討する機会を作ったりしてはいる。また、文末表現、接続詞に特化した問題をやらせ、効果的な意見表明の方法を意識させている。7-1に反対する投書をもとに作った7-3はその例であるが、これも新出語彙の表を与え、新出文型を予め教えておけば、学部進学学生にも使えるだろう。

【文章表現】課題7-3

以下のような「出生率低下は心配すべきことか」に反対する意見が朝日新聞の投書欄に載りました。下線部の表現の機能を考えなさい。また<>に接続詞、()に適切な表現を入れなさい。

「出生率低下は心配すべきことか」に反対する
15日本欄の出生率低下に関する意見について、()。
そこでは、日本の地価高騰や環境破壊、貿易問題に関して、原因が全て出産による人口増加にあるかのように論じられ、出生率低下がさも喜ばしいことのようにみなされていました。< >、
このような意見には、かなり問題がある()。
< >「日本にも適正な人口数がある」ということですが、
そこでなぜ新生児に制限を求めるのでしょうか。< >「日本の人口が半分になれば、環境等も良くなる」旨述べられています。これは非常に危険な意見だと思います。極端に言えば「それなら高齢者の人口を減らせばよい」というような意見も出てくる可能性があると思われる。< >貿易問題、経済問題に関する責任は、日本の政治家や我々社会人に求めるべきであり、それと「出生率低下」とを結びつけるのは強引ではないでしょうか。
日本が高齢化社会に向かっているということが叫ばれて久しくなります。その時に高齢者を援助し、次代の日本を担っていくのは、ほかでもない今の子供たちなのです。自分がいざ援助される側になった時、それをしてくれる人たちが大きく不足してしまっただけでは遅いのです。また、そのような状況になってしまうことこそ、もっとも心配すべきことなのではないでしょうか。
私は、理想論()が、全ての年齢層の人々が調和し、協力できるような社会を作ることこそ重要だと思います。
もちろん、そのためには老人福祉等、解決()問題が山積しています。< >、その解決の方向を「出生率低下」の肯定という消極的な方に求めるのではなく、現在抱える問題の解決という積極的な方向に求めていくべきでは()。

意思表示
意見の引用

総論反対
反対の根拠

列挙< 1 >

まず

< 2 >

また

< 3 >

さらに

自分の意見
心配は必要

結論
前向きに

解決しよう

3.2 読み、聞き、話し合ったことを意見文として書く練習

学部の二年生の授業⁽⁵⁾は、前期で徹底的に論理トレーニング⁽⁶⁾をさせた後、後期では学生の発表&議論を中心に進めている。まず二人の学生が対立する立場で意見が言えるような論題を選び、資料を簡単にまとめて皆に配布する。次にその論題について二人が異なった立場から意見を述べ、その後他者も交えて議論を行う。最後に聞き手は発表者の評価をし、コメントを書き、論題に関してはその場で200字ほどの小文にまとめる。発表者はこの聞き手の評価、コメントも踏まえた上で、選んだ論題に関するレポートを期限までにまとめるというものである。

3.2.1 発表者の論題と資料

「安楽死を法律的に認めるべきか」

発表者 A&B

安楽死とは、苦痛を抱えた患者の要請に基づき、医師が死なせる行為を指し、致死薬を注射する「積極的安楽死」と、医師が与えた致死薬を患者自身が飲む「自殺幫助」に大別される。

欧州では2002年、オランダ、ベルギーで安楽死法が施行。スイスでも末期患者の自殺幫助が認められている。英国やフランスで、患者が、安楽死を禁じる政府を相手に「苦痛しかない人生を送るよう強制するのは人権侵害」と提訴したり、患者が大統領に安楽死を求めて直訴状を送ったりするケースが相次ぐ。米国でもオレゴン州で安楽死法が成立したが、連邦政府が反発、対立が続いている。

日本では、名古屋高裁判決が1962年、世界に先駆けて安楽死容認の要件を提示。かつては「先進国」として知られていた。だが、「生命の自己決定権は人権」という考えに立つ合法化運動が進む欧米に対し、日本では緩和医療の充実など、安らかな死への環境作りに、より重点が置かれるようになった。

安楽死を否定する理由について、「個人主義の浸透した欧米と違い、日本は家族主義が強く、安楽死受け入れの環境がない。患者本人が死を求めても多くの家族は認めたがらない。」と尊厳死協会常任理事は話す。厚生労働省の昨年の調査でも、「自分が末期患者になった場合、延命治療はやめた方がよい」「やめるべき」という意見が74%を占めたが、そのうち「安楽死」を支持した人は14%にとどまった。(2004. 10. 09 読売新聞記事の書きかえ)

3.2.2 意見を述べる

議論が終わって「今日の発表内容に対するあなたの意見」という部分に学生は以下のように書いた。_____は学生が書いたまゝを記し、<>は筆者が補ったもの。

私は安楽死を法律的に認めるべきだと思う。「死」も人権の一種であって、自分が決める権利を持つべきだと思うから。病気に苦しんでいる人間たちに、もちろん病気と戦えとは勧めるが、やはり治せなくて死ぬまで苦しむ病気がある限りは、もし本人が苦しんで生きていきたくなければ、自分が決める権利はあると思う。しかし、もし法律で決めるなら、とても厳しい条件付くべきだと思う。命は大事で、簡単に死なせるわけにはいかない。慎重に行うべきだ。あと安楽死を悪用されないように、注意も払わなければいけない。(中国R)

法律で安楽死を認めることになると、まだ生ける人が自分の命を簡単に捨ててしまうことが増えるのではないか。また、それ以前に社会的に命を軽視する傾向になったり、がんばって病気と戦っている人たちにもうしわけないことになると思う。だから、安楽死を法律的に認めるべきだという意見には反対である。(韓国Y)

法律で安楽死を認めることには反対であるが、状況にもよる。「個人の死」は、個人で決定すべきである。数ある事例の中で決定権を行使できない状況においても自分の中にある「誇り」は失うことはできないと思う(失ってはならないと思う)。しかし、仮に自分が死ぬことになったとしてもくなったら?、あえて苦痛を得たい。それが「生きる」ということだと思う。別の視点から考えてみたい。「死」と「生」は紙一重の差であると思う。また「殺人」と「安楽死」の差もほんの少しの差であると思う。「個人の望んだ死」を「殺人罪」に変換してしまうことだけは避けて死にたいと心から感じた。(日本語教師志望日本人聴講生A)

3.3 話し合ったことを意見文として書く練習

センターの学部進学学生のコースでも、上級になると、口頭表現の時間に日本人学生も招いて、ディスカッションを行っている。2003年度の三学期に話し方クラスを受け持ったので、学部学生対象の授業で行っていることを一部採り入れてみた。学生に自由に論題を選ばせたところ、偶然「安楽死」となった。ただ、学部学生の場合のように「法律で認めるかどうか」という設定にはしなかった。

3.3.1 ディスカッションの前に、論題に関する質問に対し答えを準備させた。

【ディスカッションの前の準備シート：安楽死について 筆者作成】

- 1 安楽死の定義
- 2 安楽死に賛成か、反対か
- 3 なぜそう思うのか、下の例を参考にして、自分の理由を挙げよ。

・賛成意見の理由の例：

苦しんでいる患者に自分の命を終わらせる権利がないのは不公平だ。必ずしも死を選ばなくても、病状が進んで苦痛が増した時の選択肢として安楽死があることに意味がある。

・反対意見の理由の例：

自分の命は自分のものという近代的思考を超え、どの命も宇宙全体の一部と考えれば、死も自然に任せるべきだ。痛みをなくすために患者を殺すことはない。

3.3.2 ディスカッションの後で、安楽死についてどう考えるかを書かせた。

これはとても複雑な問題である。人の人生は自分の人生である。だから人は、安楽死を認めるかどうか自分の解決<選択?>であると思う。私は安楽死に賛成だ。安楽死は人の選ぶことだ。人生の筋を自分で切るとはいちばん難しい解決と思う。私はこのことができないと思う。<しかし>もし自分の人生はとても悪くて、病気は大変で家族がないのだったら、安楽死は一つの解決だと思う。

個人がいつ死ぬべきか神様だけ知っている。だからこそ、人間が他人の生命を切る権利をどこからとるかわからない。他の面から見ると、いつある病気を治す薬を発見されているのかあまり知っていない。私は安楽死のことに反対である。この一番大切な理由は安楽死を許すことにしたら、武器のように犯人の手によってひどい被害を行われる恐れが出てくると思う。

この2名の文は、内容的には先の学部学生のもので大差ない。違う点は、鍵となって全体を引き締める語彙の豊かさ、文の流れを統制する要素（条件設定、接続関係）の使い方の巧拙などである。また日本人の学生と留学生の書いたものの違いは、前者の方が全てを言語化せず、行間を読ませようとしており、読者にゆだねている部分が多いということか。この辺りの分析は今後の課題としたい。

4. おわりに

大学1、2年次の日本語教育の目標は、3、4年次に始まる専門教育を受けるための、いわゆるEAP (English for Academic Purpose) ならぬJAP (Japanese for Academic Purpose) を習得させることである。したがって、大学1、2年次の学生の日本語教育を担当する身としては、JAPの習得を円滑に進められるよう、予備教育段階で少なくとも自分の考えを述べられるだけのきちんとした日本語力、特に構文力をつけてきてほしいと思う。そうでないと、いくら考えがあっても、それを形にして他に伝達することができない。よって、日本語予備教育担当者に戻ると、そのような能力だけはつけて大学に送り出したいと思う。考えを言語化することにより思考力が鍛えられるという面もある。それで、限られた時間内に学生が負担に感じないでできる練習のいくつかを試み、それを報告した。以前書いた『橋渡しとしての中級作文教育』と併せて読んでいただけたら幸いである。

注

- (1) センターでの中級作文教育については、金子他2名(1995)で詳しく述べた。
- (2) 『中級日本語』第6課の談話のパターンをなぞらせる練習については、飯野(1987)にも報告がある。
- (3) 筆者が出講している中央大学の文科系の学生に対して行ったものである。
- (4) 野矢(1998) pp. 1-38
- (5) 中央大学の2年生の文科系の学生(ほとんど中国と韓国の学生)を対象に行っている授業である。
- (6) 野矢(1998)を一部留学生向けに改変して使っている。

参考文献

- 飯野 清士 1987 「論説文を書く作文指導の試み—学部で論文を書く前に—」
『日本語学校論集』14号
- 藤村知子・金子比呂子・伊丹千恵 1995 「橋渡しの中級作文教育—初級作文からレポート・論文へ—」『東京外国語大学留学生日本語教育センター論集』21号
- 小宮千鶴子 1989 「中級作文におけるプランの指導」『日本語学校論集』16号
- 野矢 茂樹 1998 『哲学教科書シリーズ 論理トレーニング』産業図書
- 姫野 昌子 1981 「文章表現の指導」『日本語教育』43号

A Report on Writing Practice at an Intermediate Level

—Aiming at Writing Academic Essays—

KANEKO, Hiroko

The goal of the intermediate writing is to write expository essays which are focused mainly on clarity of description, and critical essays based on argument. Therefore, we have taught them how to find ideas and put them appropriately on paper with unity, coherence and development. In order to bridge the gap between basic writing and academic subject writing, we have made some shifts in teaching of writing at an intermediate level, as we reported in 1995.

This is a report on the intermediate level writing practice in more details. In the Japanese Language Center for International Students, curriculum of Japanese is designed to integrate students' skills (reading, listening, speaking and writing). As for writing, to perform the instruction effectively, we devised some teaching method in terms of integrated approach. We use a model composition from the textbook, and let the students discuss the theme according to each point of instruction.

Although there are some points that need to be improved, the trial is considered to be a meaningful effort.